

## 幼兒最初の學校生活

東京女子高師訓導

山内俊次

私は、昨年四月以來尋常科第一學年兒童三十名(男

女各十五名)を擔當いたしましたして、丁度一ケ年どうやら過ごした譯であります。今日靜かにふりかへつて見ますと、誠に思ひなかなものが多々あるので、實に汗顔の至りであります。

はじめ、私の最も留意いたしました事は、外でもありません。兒童の幼稚園乃至は家庭生活から學校生活への過渡期を如何に取扱ふべきかといふ問題でありました。

この問題は私にとつては相當に難問題でありました。抑々學校生活の最初の一步は、彼等の全生涯から見ての一大變化であつて、而も極めて急劇な變化であります。従つてこれが加よはき幼兒の身心に及ぼす影響たるや決して輕々しく見る事が出來ない。況んや彼等身心發育の方面から見ても極めてその旺盛な時期であると同時に、統計上罹病率といふ

ものゝ甚だ高い時期であることは、一入注意を要する問題であるからであります。

最も新入兒童の中には、それらの幼稚園生活をして來たものがあります。これは家庭生活から直ちに學校生活へ這入るものに比して割合にその變化の程度は少なからうと思はれます。故に全部の兒童が幼稚園生活をして來た場合は、これは甚だ好都合であつたらうと思はれます。何故ならば、幼稚園生活は、丁度家庭生活と學校生活との中間生活としても見得る點があるからであります。この意味に於ても、私共は今日の幼兒教育といふものゝ普及を一層發達せしむべく乞願ふ次第であります。

然るに私の學級兒童について見るに、その過半は依然家庭生活から直ちに學校生活へと這入つたものであります。最もその家庭生活の良否といふことは別問題といたしまして、大部分の兒童がそれでありますからその點には少からず考慮したのでありま

すが、少數であつても、兎も角幼稚園生活を終へて来たものもあります。ですから、これを亦度外視する譯にも行きません。従つて三十名の兒童の個々について各々異つた事情のあることは、私共も少からず考慮を要する點であつたのであります。

## 二

未だ全く無經驗であるべき學校生活といふものに對する新入兒童の豫期といふものは果してどんなものでありませうか。どうもそれらに對しては一般家庭に於て妥當な取扱ひのしてないものが多いではないかと思ひます。徒らに大人の考を以て學校へ行つたらばあゝしなければならぬ、こうしてはならぬなどと、未だ兒童の必要にも迫らざることにまで及んで彼此と我が子を思ふのあまりにやかましくいはれた子供は果してその入學當初を幸福ならしめる所以でありませうか。私共は實際さういふ風にして来た兒童をまのあたり見るにつけてもその決してほめるべきことでないことを痛切に思ふのであります。むしろ家庭に於ける本來の子供らしい他所行きでない、ありのまゝの子供の方が自然であり、幸福であることを熟々思ふたのであります。これがそもそ

學校生活に入るのスタートを健全ならしむべく大切なことだと思ひました。

さてかくして學校生活に入つたものに對しては、先づ以て彼等の社會的生活の益々擴張されたことを新らしい喜びとして感せしめねばならぬ。彼等と教師との心の接觸をいひしれぬなつかしみとして感せしめねばならぬ。學校の所謂校規ともいふべきもので律しやうとするが如きことは、幼兒最初の學校生活に對しては無用のことであると信ずるのであります。多人數團體生活による必要に迫られて規約も構成し創造していつたらよからう。

今まであまりに時間的に規律立つた生活に經驗の乏しい幼兒に對して、鐘の合圖で教室に入り、四十分か四十五分で、更に鐘の合圖で運動場に出る、かくして毎時の終始を鐘の合圖によらねばならぬといふことは、幼兒最初の學校生活としては、稍々適切を缺きはせぬか。私はこんな考へから、随分大膽に第一學期の殆んど大部分を、合圖の鐘を度外視して進みました。

第一時間割表といふものを、嚴肅に定めないので、極めて大體の豫定を教師の方丈け定めておいた譯で

あります。そして時間的には極めて自由を與へて見たのであります。だから學校といふ所は鐘の合圖で教室の出入をするものだといふ様な感じはもたしめなかつたのであります。

だから教授時間といつても教師のお話から初まつて、途中順次に變じ、それがやがて自然動作を伴つて遂には唱歌遊戯となりなどすることもあり。繪雜誌を登校時舉つて見ることから、一人その畫の説明を教師に對してするものがある、又二人三人、それが段々全體に對しての説明となり、遂には話し方、聞き方の練習になることもある。或る時は圖畫に於てその經驗を記憶によつて發表することから、その説明となり、多數の成績を陳列しては相互に批評せしめるといふ様にして、一連續の作業を終るや、教師兒童打つて屋外に出で、自由遊戯から、團體遊戯に變化することもあり、團體遊戯から各自の思ひ思ひの遊戯になることもあります。かくして適當の機會に又教室に入るといふ様な状態であつたのであります。

或は思ふ人があるであらませう。それでは如何にも最初の學校生活が放縱と選ぶ所がなからうと。生

きた教師はそこに常に同伴者として彼等の登校時から下校時までゐる以上、さうした杞憂は一としてあるべき筈はないのであります。そしてその間に相當の課程をも終らねばならぬし、學校生活の第一歩をして健全に且つ意義あらしめねばならぬ。かくして、各個人の傾向といふものをも正確に査定してそれに適應した指導をもしなければならぬ。初學年兒童のかうした取扱に於て教師の任務の愈々重大なることを思はねばならぬのであります。

### 三

私の學級は矢張り四間と五間の部屋でありますけれども兒童數が三十人であるし、大テーブル五脚あつて、それに三十人の子供が夫々分れてるのであります。つまり一脚のテーブルに六人の子供が向き合つて腰かけてゐる譯です。そしてお互に睦しく話しながら、夫々の作業をするのであります。彼等が彼等の作業を餘念なくする間に彼等同志に睦しく話しをすることは極めてナチュラルなことであつて、又極めて麗しいことである。從來教授時間とし云へば、極めて靜肅であることを豫想する様なことであつたのは何たる不自然なことであらませう。かくて

は尊き生命を有する児童を人として物として取扱つた様なものではありますまいか。

學校へ入學すると彼等が家庭生活に於ては到底經驗し得ざることによく遭遇するであります。それは外でもありません。先づ一人机か二人机によつて。四角な廣い教室へ、隅から隅までぎつしりならべられた机にとつかねばならぬことであります。

その机間といへども時に體を横にせねば通られないといふ學校も今日尙少くないのであります。かくの如きことは、今日の經濟狀態に於ては容易に解決のつき兼ねることながら、果して幼兒最初の學校生活に於てよい影響を與へるものであらうかどうか。

私は前から度々申して參りました様に、學齡に達した兒童が學校に這入つて多數の友だちを得ることに、より、彼等のやがて社會生活への第一歩となす所に、大いに意義あることは認める。然しながら、教室の隅から隅まで机で以て埋められた中に、各兒が規則正しくその場を定められ、一壇と高い所に教師がいかめしく構へ、前に教卓を据え、鞭を打振りながら壇上に活躍するのは教師その人のみであるといふことは、何たる教師本意のことでありませう。未だ學

校生活の何物たるかをもわきまへない幼兒最初の取扱ひに於てかゝる方法をとるとするなら、あまりにしのびないことでありすぎると思ひます。

今日一學級の兒童數をなるべく少くすることは理想としつゝも一面又已むを得ずこれを實行し得ないといふことは遺憾千萬なことだと思ひます。せめてもその取扱ひに於ては、特に幼兒最初の學校生活に於ては、かくも狭苦しい部屋にのみ閉ぢこもらないでよろしくオープンエーヤで以て教授を進めて行きたいと思ひます。狭苦しい部屋でなければならぬといふ理由がどこにあります。

それらの點から申しますと私の學級の如きは、或は理想に近い程かとも思はれます。時には教室の何れの部分へでも、各自腰掛ばかりを携へて自由に集合して、其日經驗したことも各兒話しあひ、その機會に於て兒童の現在の生活に即した、生きた修身教授になることもある。彼等の共同製作の様なものも教室の一方には廣く場をとつて列べることも出来る。一方には書籍棚をそなへて。適當な讀物を多くそなへおき、各兒の必要に應じて自由にこれを讀むの設備も裕に出來てゐるといふ様なことは、幼兒

最初の學校生活に於て少からず有效なことで子供の爲めに如何にも幸福なことであつたかの様に思はれます。

#### 四

私の學級に於ては、多少新らしい試みとして從來の學級教授と異つたことをもやつてゐます。即ち一齊教授といふことを少くして個別指導といふものの方をつくしてゐることなどもその中の一つであります。従つて、必要に應じて、時には一時的に席を定めることもないではありませんが、平生に於ては、テーブルが五脚ある丈で、何處でもかまはない。

自習時間の如きは書棚の前に書物を見るものもあれば、窓際の棚の上で繪を畫くものもある。テーブルについてしきりと何か綴り居るものもあれば、折紙の飛行機を盛につくつてゐるものもある。さうかと思へば數名のものが計算カードによつて計算練習の競争をやつてゐるものもあるし、窓下で運動に餘念のないものもある。かゝる自由作業の間にも常に、彼等の幼稚ながらの計劃目的に對して兎も角、それを遂行しなければ止まないといふ様に訓練したいと考へてゐました。そしてそれを無理に押賣りに幼

兒に要求することは夢々したくない。自然の間に子供らしいさうした態度を養ひたいと考へてゐました。

やつと今日ふりかへつて見る時に、多少その點丈けは大いに見るべきものがあつた様に思ひます。學級全體を通じてその學習態度なるものは實に喜ばしき傾向が芽ざしてゐることを認めるのであります。けれどもこれが、果して持續するものかどうかわかりません。唯返す返すも遺憾であつたことは、私が最初大いに計劃しやうとしたことの多くは遂ひに思ふ様に實行出来なかつたことであります。

#### 五

私の幼兒最初の學校生活に對して、今日まで實際より來つた方針は、大體に於て今少しく幼稚園生活的ならしめたことであります。これが家庭生活から學校生活への急變を幾分なりとも緩和することであり、幼稚園から來た者に對しては、その幼稚園生活の延長とも見ることが出来ませう。然しながら茲に一言したいことは、かうした取扱ひは、必ずしも現行の教科課程を輕減して教授の効果を低下せしむる所以でないといふことであります。幼兒最初の學校生活をより幸福ならしむべく努むることは、むしろ彼等將來への學習能率を一層高むる所以であること深く信じて疑はないのであります。